

大学の窓から

…市民活動、ボランティアのステップアップを目指して…

連載 2

情報を収集する力を高めるためには――

ある講座についてのチラシが1枚あります。そこには、開催日時や開催場所、講師、講演テーマなど多くの情報が載っています。さて、あなたは、このチラシからどんな情報を得られるでしょうか。そして、次にどんな情報が欲しいと思うでしょうか。

前回は、同じ情報からでも、どのような意味を読み取ることができるかは一様ではなく、その情報をどんな意味を持つものとして理解するのかが、一つの大きな分かれ道となることをお話ししました。今回は、情報を収集する力を高めるといことについて考えてみたいと思います。

最初のチラシの例では、ふつうに考えれば、その講座について、講師、テーマなどから参加したいと思うかどうかを判断し、開催日時などと自分の予定を見くらべて、実際に参加できるかどうかを検討したりすることになるでしょう。ここまでは、このチラシから、その講座についての情報を得ていることになりませんが、そこからさらに、別の講座についてのチラシも集めてみようと思うことがあります。

さて、それでは、さらにチラシを収集しようとするときに、どのような考え方、集め方があるでしょうか。まずは、他のいろいろな講座についてのチラシも集めることが考えられます。これは、いわゆる、**広く情報を集める**ということになるでしょう。それだけでなく、1つの講座について、過去数年間分のチラシを収集したり、その講座で実際に配付された資料などまで収集するということも考えられます。これは、**深く情報を集める**ということができるでしょう。この広く集める、深く集めるという2つの方向によって、情報収集力の面としての大きさが大きくなることになります。

ここに、もう1つの視点を加えてみたいと思います。この集めたチラシからの情報は、その講座について、何かを知るためだけにしか使えないわけではなく、例えば、自分が何かのチラシを作ろうとするときに、集めたチラシのレイアウトや色使いなどを参考にすることも可能となります。これは、収集した情報が、何に使えるのかという**厚みを増すような方向**ということができます。**広く深くに、厚くという方向を加える**ことによって、情報の収集力を体積として大きくしていくことができると考えられます。情報を収集する力を高めるためには、ふだんの生活においても、このような視点を持ち続けることが有効といえるでしょう。

また、情報を収集する力を高めるためには、**情報のやり取りができる範囲を広げる**ということも大切になります。私たちの生活を振り返ってみても、日頃からよく話をする人と、たまにしか話をしない人がいます。そして、自分がふだんから考えていることとは違った情報や意見を聞くなど、目から鱗が落ちるといようなことは、たまにしか話をしない人からもたらされることが多いのではないのでしょうか（これについては、「弱い紐帯の強さ」という興味深い話がありますので、機会を改めて詳しくお話しできればと思います）。例えば、メンバーが固定化してきたサークルなどで、活動がマンネリ化してきたところに、新しいメンバーが加入して、これまでとは違った活動のアイデアが導入されることなどをイメージしてもらおうとわかりやすいかと思います。このようなことは、人から情報を得る場合にだけ限ったことではなく、どのようなメディア（媒体）を使うかの範囲を広げることも同様で、インターネットで検索する時に、いつも使う検索サイトだけでなく、違った検索サイトを使ってみたり、SNSなどを使って、情報を発信することで、自分だけでは見つけられなかった情報を入手することができたりすることもあります。

なお、今回は、情報を集める力についてのみのお話でした。収集した情報のうち何が信用できる情報なのかなど、情報を適切に評価する力についても必要となりますが、それにはふれておりませんのでご注意ください。

【今回の参考・引用文献：拙稿「情報の収集力」（『生涯学習支援実践講座 生涯学習コーディネーター新支援技法研修（テキスト1）』社会通信教育協会、2014年、49～57ページ）】



宮崎大学 教育・学生支援センター准教授
高橋 利行(たかはし としゆき)

著者プロフィール

専門は生涯学習学。人々の生涯学習を支援するための情報提供の方法を研究。出身は岩手県で、平成16年より宮崎大学に着任。主な著作に、『地域をコーディネートする社会教育-新社会教育計画-』（分担執筆）（理想社、2015年）や『生涯学習概論-生涯学習社会への道-（増補改訂版）』（分担執筆）（理想社、2014年）など。